

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024 年 2 月 21 日

事業所名 風の子デイサービス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			活動に応じた環境を整えます。利用定員に収まるように人数と曜日を調整しています。
	2	職員の配置数は適切である	○		法令配置数を配置しています。	必要に応じて個別対応をしています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすい環境になっている。また、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			子どもがより、安全に過ごせるような工夫をしていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		環境整備に努めています。	感染症予防のため、換気や消毒を徹底していきます。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		子どもにかかわる職員が定期的に会議をしています。	PDCAサイクルを活用しやすいように工夫、職員全体で情報共有し、よりよい支援に向けて、意見交換をしていきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者向けアンケートを実施しています。	アンケート結果を職員全体で確認し、自己評価結果と照らし合わせて、業務改善に努めます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		保護者向けアンケートをホームページで公表しています。	ホームページ以外の公開については、今後検討します。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	現在は保護者、職員の評価を実施しております。	第三者による外部評価については、今後実施を検討します。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		自立支援協議会子ども部会への参加や法人内研修等で職員の資質向上に努めています。	職員、それぞれの仕事内容、職務に応じた研修を企画し、職員が主体的に取り組めるようにしていきます。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している	○		なるべく関係者全員でアセスメントを基に立案しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		基本的人間関係の形成と必要な配慮を中心に独自のアセスメントツールを作成、活用しています。	
	12	個別支援計画には、「発達支援」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		独自のアセスメントツールを用いて、子どもの発達全体を把握しています。	「本人主体の支援」「家族支援」と発達心理学からの知見を基盤に保護者と子どもの立場に立った理解に向けた情報共有を大切にしています。意味的アプローチを用いて関係者で討議を行ないます。
	13	個別支援計画に沿った支援が行われている	○			ケース討議、サービス担当者会議で、計画に沿った支援になっているかを確認していきます。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		チームでプログラムを立案しています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		本人の興味に合わせた活動を企画しています。	本人の意見を尊重し、活動に継続して取り組み、楽しめるようにしていきます。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成している	○		個別対応とグループ活動を取り入れています。	個別では安心できる環境設定、集団では大人が子ども同士の橋渡しを行ない、よりよい人間関係を築く支援に努めます。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	○		毎朝の打ち合わせや申し送り情報共有を行なっています。	職員間でその日の動きや役割を確認し、チームワークを取ることを大切にしています。
	18	○		療育後に本人の行動や家族の現状などを情報共有しています。	短時間でも毎日、話し合う機会を設けるように改善していきます。
	19	○		日誌に子どもの状況や家族の様子を記録しています。	記録を確認し、子どもの状況に合わせた支援内容を検討していきます。経過をおって、よりよい支援を検証し改善につなげていきます。
	20	○		半年に1回のモニタリングを実施しています。	個別やグループ相談により、保護者から子どもの状況を聞き取り、心配なこと気になることについて一緒に考えます。保護者と協力し、経過を見ながら、問題が改善に向かっているかを確認し、必要に応じて計画を見直していきます。
関係機関や保護者との連携	21	○		子どもとかかわる職員が参加しています。	会議には児童発達管理責任者に加え、管理者、同法人の保育園、ベビーホームのクラス担任、スーパーバイザーが参加できるように調整していきます。
	22	○		「東淀川区子育て支援事業者連絡会」の参加者から子育ての情報を得るようにしています。	
	23	○			同法人が運営する児童発達支援センター淡路こども園、姫島こども園と連携し、本人主体の支援を深める機会として研修に参加していきます。
	24	○		同法人の保育園、ベビーホームで活動を共にし、交流する機会を作っています。	職員が子ども同士の交流の橋渡しを行ない、お互いの関係を深める支援をしています。
	25	○		自立支援協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しています。	他事業所や関係機関との勉強会、施設見学会、事例検討会、研修に積極的に参加しています。
	26	○		送迎時や電話、連絡帳にて連絡を取り合っています。	家庭の様子は連絡帳で確認。必要に応じて電話連絡を行います。子どもへの理解、状況、支援課題を共有していきます。
保護者への説明責任等	27	○		契約時に説明を行っています。	その都度の質問にお応えし、より丁寧な説明ができるように努めます。
	28	○		家庭連携シートに本人や保護者のノードを記入していただいています。	面談を基本としながら、電話連絡等で、相談を継続していきます。
	29	○		電話相談や個人面談を行っています。	保護者が育児負担や悩みを一人で抱え込まず、前向きな気持ちで育児できるように、相談支援を充実させます。
	30	○		定例のグループ相談を開催しています。	グループ相談への参加を呼びかけています。保護者同士が支え合う関係を築けるような支援をしています。
	31	○		園内に苦情受付担当者を選任する他、大阪府社会福祉協議会運営適正委員会、各区の福祉サービス担当者とも連携し苦情受付体制を整えています。	苦情や要望等については迅速かつ誠実に対応するところを心がけています。内容は記録に残します。同じようなご意見がある場合は対策を職員全員で再度話し合うなど、改善に努めます。
	32	○		同法人保育園の「風の子たより」を配布しています。	月刊「風の子たより」、ホームページの更新を行い、最新の情報発信を心がけます。読みやすい内容になるように検討していきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	33	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報同意書、写真掲載同意のアンケートを実施しています。	関係機関との連携の際に保護者の同意を得たうえで情報提供するなど、個人情報の管理を徹底していきます。写真掲載については年度初めのアンケートを基に確認のうえ掲載いたします。個人記録は事務所内の鍵付き書棚に保管し、持ち出し厳禁としています。
	34	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		わかりやすいことばなど、合理的配慮を行なっています。	子どもや保護者に対して、常に意思や感情をくみとり、聞く姿勢をもって対応していきます。
	35	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		保育園の秋まつりを地域に向けて一部を開放しました。	より、安全に配慮した地域開放ができるように、今後検討していきます。
非常時等の対応	36	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			法人内の防災委員会の事項を職員間で周知し、防災への意識を高めます。保護者への周知についても検討していきます。
	37	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		保育園、ベビーホームと合同で訓練を企画しています。	地震、津波、不審者等、あらゆる場合を想定した訓練を企画していきます。日常的には避難経路の確認と環境整備を徹底していきます。
	38	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		原則、事業所内で服薬することはありません。	家庭内の服薬状況について保護者から聞き取りをしていきます。必要に応じて看護師から助言を得るようにします。
	39	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		すべての子どもにアレルギーの有無を確認しています。	アレルギー対応が必要な子どもがいれば、医師に指示書の提出を依頼し、対応するようにします。
	40	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット報告書を職員で共有します。	ヒヤリハット事例集を使って職員研修を行ない、普段の支援において安全面への配慮に努めます。
	41	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		利用者の人権擁護の意識を高め、地域に開かれた施設として利用者が安心してサービスを利用できるように、理念や倫理綱領を明文化しています。	虐待研修で虐待についての意識を高め、職員同士が話しやすい雰囲気作りに努め、虐待と見られる言動については職員同士で注意を促します。職員の個人的な問題として処理しないで、虐待の要因をソフト、ハード、環境、関係者、当事者との関係から検討し、組織として良好な施設環境を確保する契機とします。
42	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している	○		ヘッドギアの使用については身体拘束についての同意書に使用の理由等を記録しています。		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。